



平成 19 年度

# 建設業安全衛生推進大会



主催 宮崎地区建設業協会  
共催 宮崎労働基準監督署

平成18年業種別・署別災害発生状況(休業4日以上)

宮崎労働局

上段  
下段

死亡災害:平成17年 確定  
死亡災害:平成18年 確定

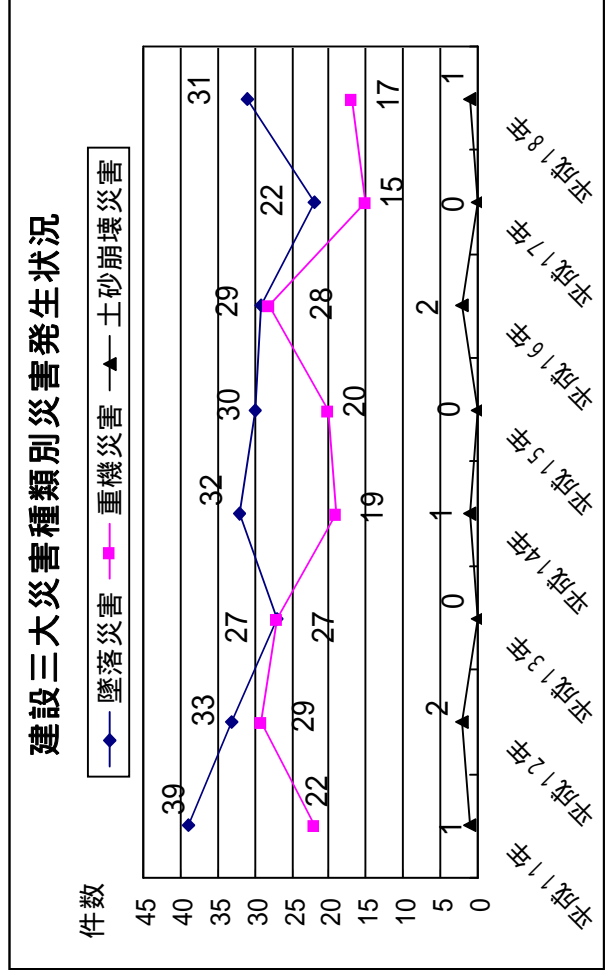
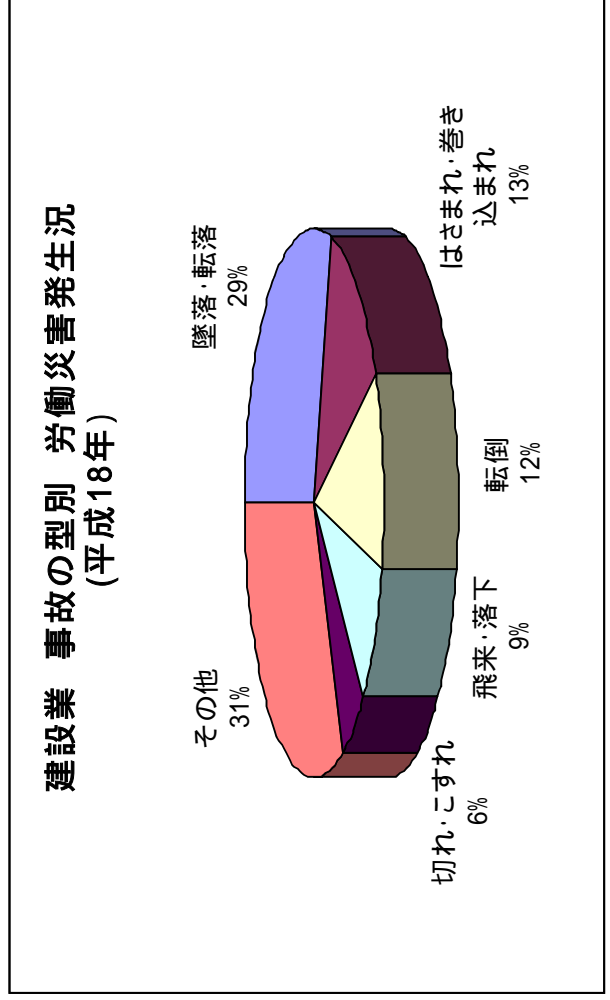
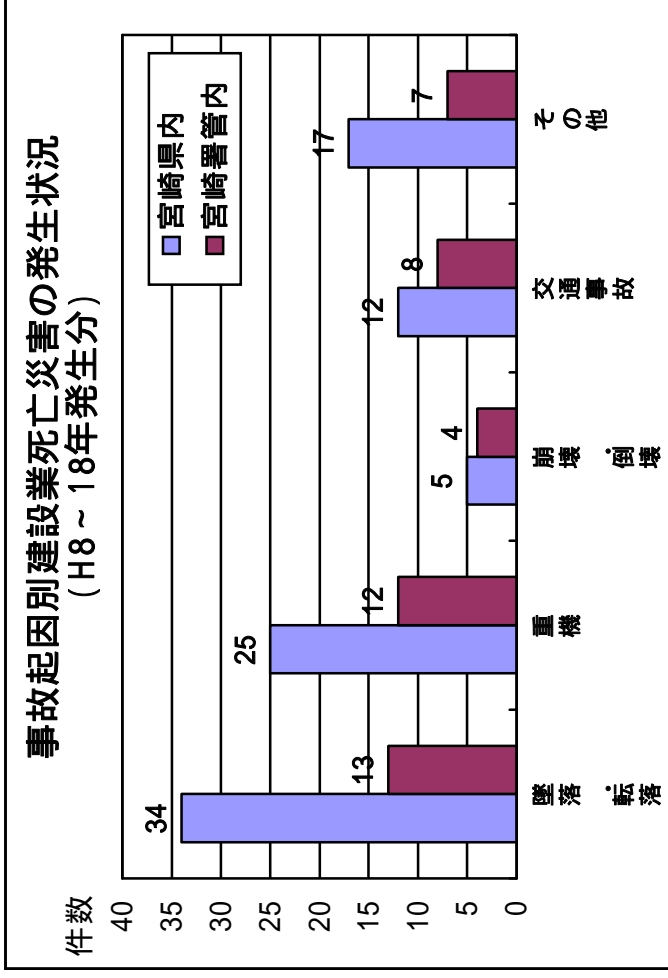
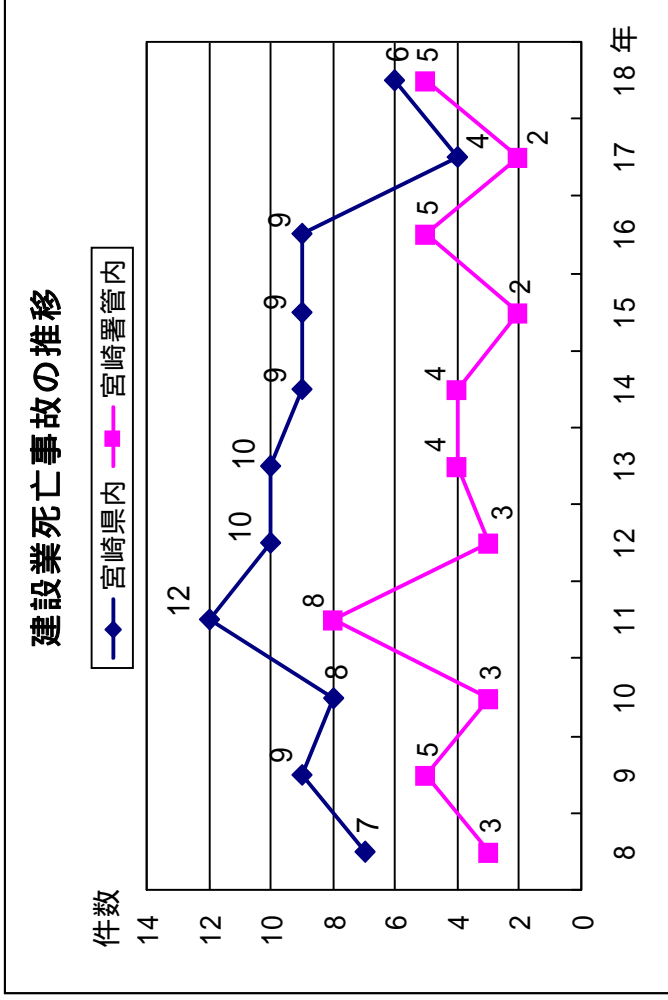
休業災害:平成17年 確定  
休業災害:平成18年 確定

	合計			宮崎署			延岡署			都城署			日南署		
	死亡	休業	計	死亡	休業	計	死亡	休業	計	死亡	休業	計	死亡	休業	計
01 製造業	3	365	368	1	115	116		92	92	2	131	133		27	27
	1	358	359	1	108	109		82	82		134	134		34	34
01 食料品	1	131	132		56	56		32	32	1	41	42		2	2
		146	146		55	55		27	27		55	55		9	9
04 木材木製	1	73	74	1	6	7		16	16		36	36		15	15
		72	72		10	10		16	16		30	30		16	16
09 窯業土石		32	32		8	8		13	13		10	10		1	1
		18	18		5	5		3	3		9	9		1	1
12 金属製品		29	29		6	6		5	5		14	14		4	4
		26	26		10	10		9	9		4	4		3	3
13~15 機械器具	1	21	22		10	10		4	4	1	6	7		1	1
	1	24	25	1	9	10		9	9		5	5		1	1
02 鉱業		4	4		2	2		1	1		1	1			0
		7	7		3	3			0		4	4			0
03 建設業	4	259	263	2	86	88		87	87	2	68	70		18	18
	6	280	286	5	92	97	1	101	102		72	72		15	15
01 土木工事		90	90		26	26		42	42		19	19		3	3
	3	113	116	3	39	42		45	45		24	24		5	5
02 建築工事	2	120	122		40	40		25	25	2	43	45		12	12
	2	125	127	2	40	42		39	39		36	36		10	10
(02-02 木造建築)		40	40		15	15		15	15		9	9		1	1
		42	42		14	14		14	14		9	9		5	5
04 運輸交通業	3	171	174	1	83	84	1	29	30	1	56	57		3	3
	2	138	140		58	58	1	24	25	1	54	55		2	2
03 道路貨物運送	3	151	154	1	69	70	1	26	27	1	53	54		3	3
	1	119	120		47	47	1	19	20		51	51		2	2
05 貨物取扱業		6	6			0			0		6	6			0
		12	12		3	3		5	5		4	4			0
06 農林業	3	104	107		37	37	2	44	46	1	16	17		7	7
	3	106	109	1	33	34		40	40		22	22	2	11	13
02 林業	3	81	84		25	25	2	40	42	1	12	13		4	4
	3	86	89	1	23	24		39	39		16	16	2	8	10
07 畜産・水産		63	63		23	23		9	9		22	22		9	9
		60	60		22	22		6	6		27	27		5	5
08 商業	1	164	165		90	90	1	28	29		37	37		9	9
	1	171	172	1	76	77		34	34		53	53		8	8
01~02 卸・小売	1	154	155		82	82	1	28	29		35	35		9	9
	1	162	163	1	76	77		29	29		49	49		8	8
09 金融広告業		17	17		11	11			0		4	4		2	2
		32	32		20	20		8	8		4	4			0
10 映画・演劇		1	1			0		1	1			0			0
		1	1			0			0		1	1			0
11 通信業		44	44		18	18		6	6		17	17		3	3
		27	27		13	13		5	5		6	6		3	3
12 教育研究業		7	7		4	4		1	1		2	2			0
		12	12		5	5		3	3		3	3		1	1
13 保健衛生業		74	74		27	27		15	15		29	29		3	3
		74	74		29	29		21	21		22	22		2	2
14 接客娯楽業		90	90		54	54		15	15		19	19		2	2
		95	95		54	54		13	13		25	25		3	3
15 清掃と畜業		61	61		41	41		6	6		13	13		1	1
	2	55	57	1	30	31		8	8	1	16	17		1	1
01-01 ビルメン		24	24		21	21		2	2		1	1			0
	1	28	29		16	16		6	6	1	5	6		1	1
16 官公署		6	6		1	1		3	3			0		2	2
		2	2			0			0			0		2	2
17 その他の事業		68	68		30	30		16	16		18	18		4	4
	2	61	63		30	30	1	11	12		18	18	1	2	3
01-01 派遣業			0			0			0			0			0
			0			0			0		1	1			0
合計	14	1504	1518	4	622	626	4	353	357	6	439	445		90	90
	17	1491	1508	9	576	585	3	361	364	2	465	467	3	89	92

資料出所:労働者死傷病報告

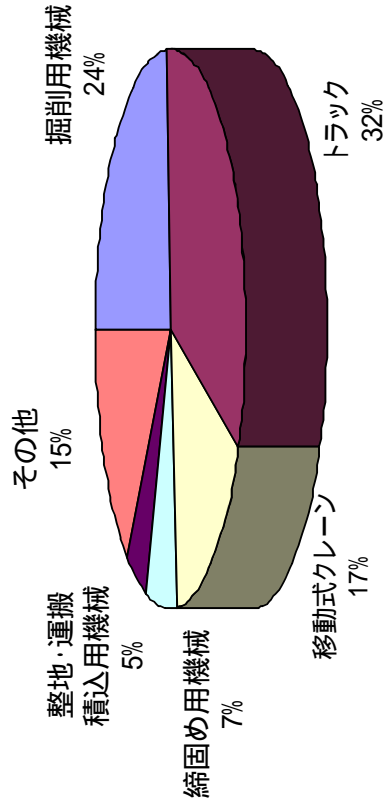


# 宮崎労働基署管内の労働災害の現状

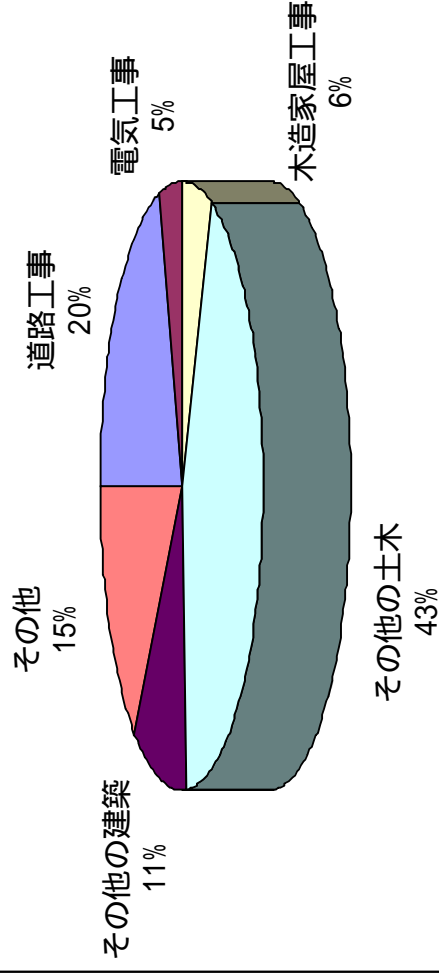


# 宮崎労働基署管内の労働災害の現状

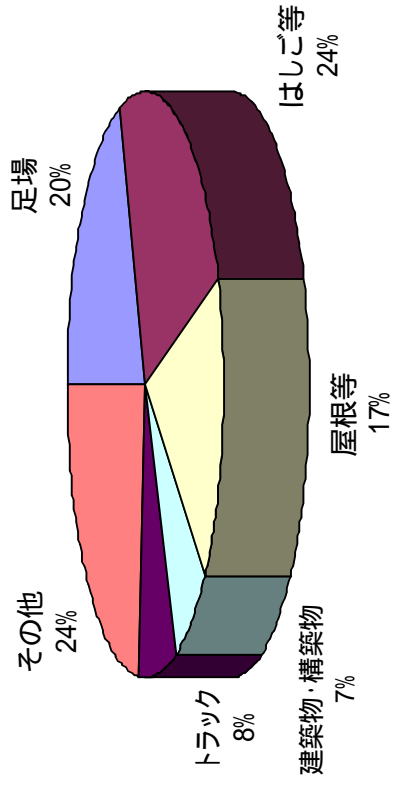
重機災害 起因物別 労働災害発生状況  
(H11～18年度発生176件)



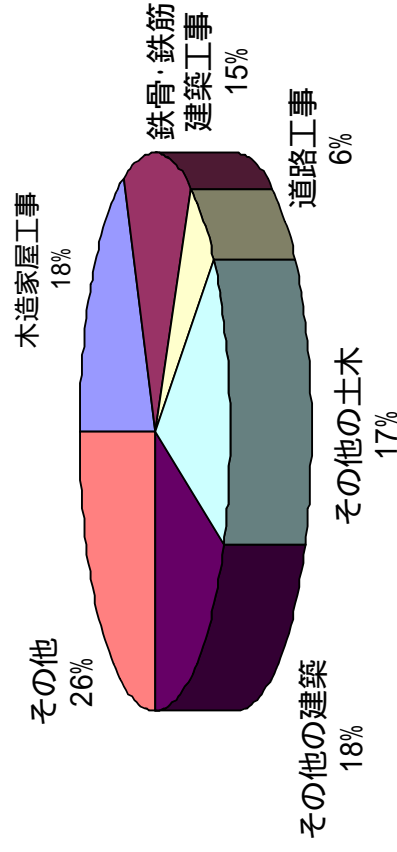
重機災害 工事種別 労働災害発生状況  
(H11～H18年度発生176件)



墜落災害 起因物 労働災害発生状況  
(H11～H18年度発生243件)



墜落災害 工事種別 労働災害発生状況  
(H11～H18年度発生243件)

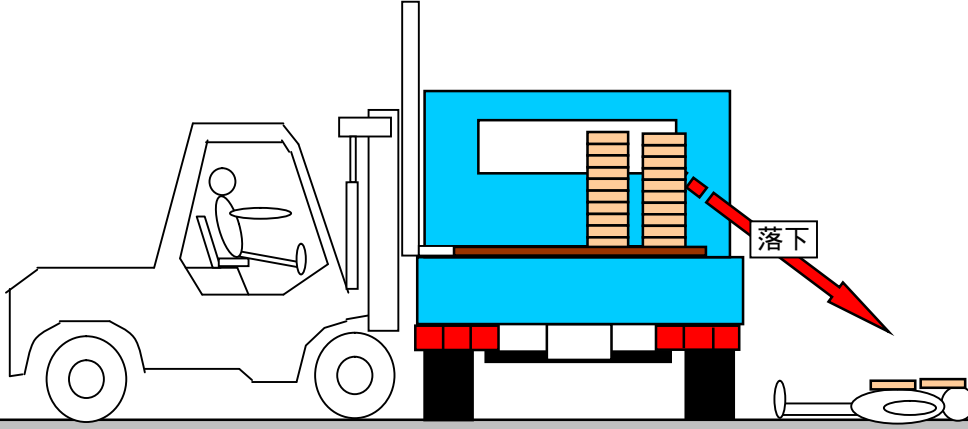


# 災害事例

宮崎労働基準監督署

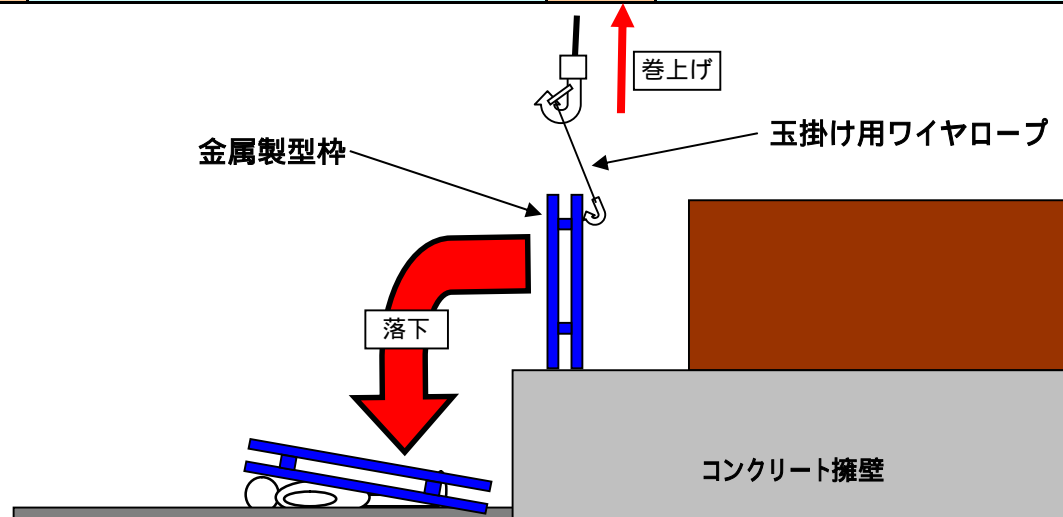
## 災害事例

事故の型	飛来・落下	起因物	フォークリフト
発生状況	トレーラーの荷台に4列(1列10枚重ね)積載されていた鋼製矢板をフォークリフトで降ろす作業を行っていた。トレーラーの側方より1列ずつ順番に降ろしていき、3列目の鋼製矢板を降ろすためフォークを鋼製矢板の下に差し込んだところ、フォークの先端が奥の4列目の鋼製矢板に接触した。これにより、トレーラーを挟んでフォークリフトと反対側で作業していた被災者に鋼製矢板が落下し被災した。		
原因	鋼製矢板が崩れる危険がある箇所に立ち入ったこと。 フォークリフトで鋼製矢板を持ち上げる際、運転者に周囲の確認をよく行わせなかったこと。また、誘導する者の配置等をしていなかったこと。 無資格者による運転が行われていたこと。	対策	危険が生ずるおそれのある箇所に労働者を立ち入らせないこと。 フォークリフトで鋼製矢板を持ち上げる際、運転者に周囲の確認をよく行わせること。また、誘導者を配置し、誘導させること。  フォークリフトの運転は、有資格者に行わせること。



## 災害事例

事故の型	飛来・落下	起因物	移動式クレーン
発生状況	移動式クレーンを使用してコンクリート打設用の金属製型枠を設置し、玉掛け用ワイヤロープのフックを当該型枠から外した。オペレータが巻き上げたところ、玉掛け用ワイヤロープのフックが金属製型枠の上部に引っ掛かったため当該型枠が倒れ、下方にいた被災者を直撃した。		
原因	金属製型枠を設置した後、当該型枠が倒れないように固定等をしていなかったこと。 金属製型枠が倒れるおそれのある状態において危険箇所に立ち入ったこと。 無資格者による移動式クレーンの運転、玉掛け作業が行われていたこと。	対策	金属製型枠が倒れないように、玉掛け用ワイヤロープを外す前に固定等を行うこと。 金属製型枠が倒れるおそれがあるときは、危険箇所へは立ち入らないこと。 移動式クレーンの運転、玉掛け等の作業は、有資格者に行わせること。



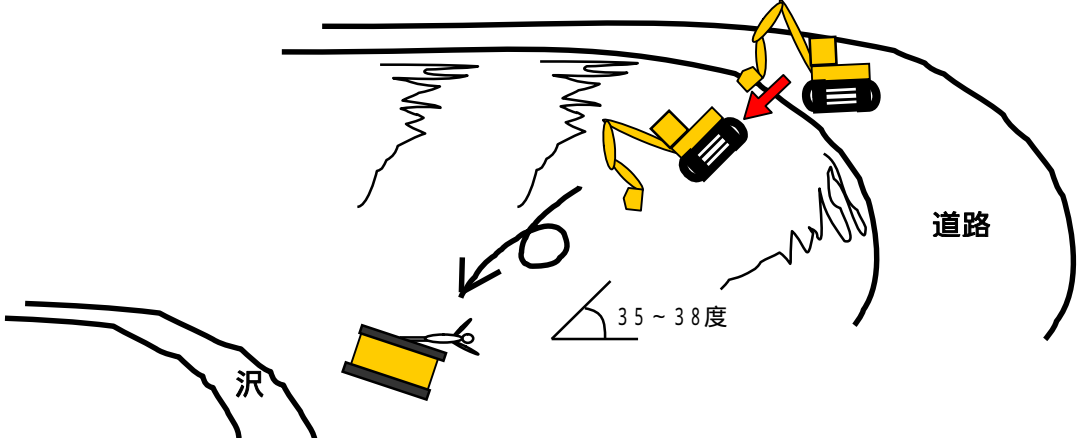


# 災害事例

宮崎労働基準監督署

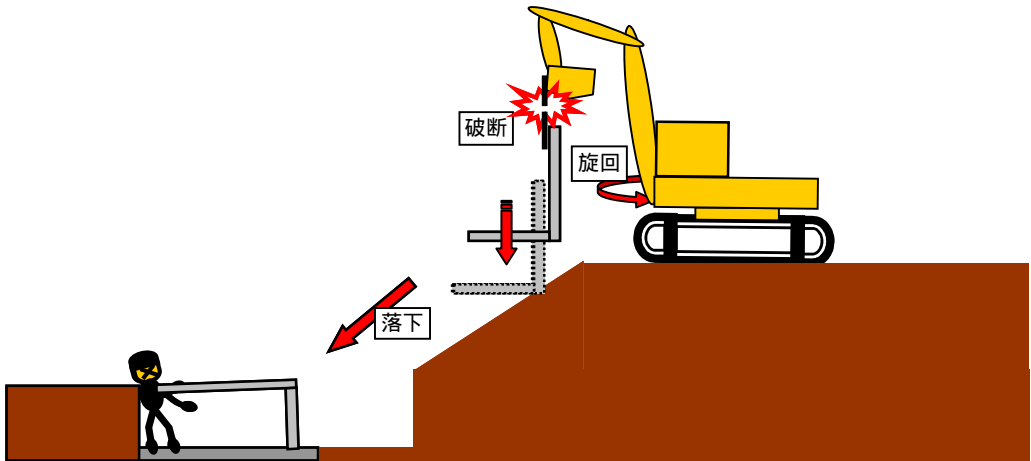
## 災害事例

事故の型	墜落・転落	起因物	掘削用機械
発生状況	道下の法面をドラグ・ショベルで掘削するため、ガードレールを外し、被災者の運転により沢のある谷底に向け斜面(勾配35～38度)を降りていたところ、機体が傾き、斜面を約20メートル転落。被災者は、機体の下敷きになった。		
原因	ドラグ・ショベルの能力を超えた急勾配の斜面を走行させたこと。 ドラグ・ショベルを用いて作業を行うときに、あらかじめ、作業場所の調査等を行わず、作業計画を定めていなかったこと。	対策	ドラグ・ショベルの能力を超えた急勾配の斜面に進入させないこと。 あらかじめ、作業場所の地形等を調査記録した上で、調査により知り得たところに適応する作業計画を定め、作業方法等を決定すること。 作業計画に基づいた作業が行われるよう関係労働者に徹底すること。



## 災害事例

事故の型	飛来・落下	起因物	玉掛用具
発生状況	造成工事現場において、ドラグ・ショベルで土止用L型擁壁(重量3.75t)を吊り、約2mの設置箇所に着付けるため機体を旋回させたところ、バケットのフックに掛けていた玉掛用ワイヤロープが切れ、L型擁壁が落下。L型擁壁の据付け場所で待機していた被災者が、地山とL型擁壁との間に挟まれた。		
原因	ドラグ・ショベルを主たる用途以外の用途に使用したこと(整地・掘削・積み込み及び運搬に用いる建設機械を、荷の吊り上げに使用した)。 腐食している玉掛け用ワイヤロープを使用し、かつ、安全係数が不足していたこと。	対策	荷の吊り上げは、移動式クレーンを用い行うこと。なお、移動式クレーンによる作業においては、事前に、地形や地質の状態、荷の重量等を考慮し、作業方法等を定め、関係労働者に周知すること。 吊り荷の重量及び安全係数等を考慮した上で、作業に適した玉掛け用ワイヤロープを選定、使用すること。 作業開始前に玉掛け用ワイヤロープの点検を行い、損傷等が認められたときは、補修又は廃棄すること。

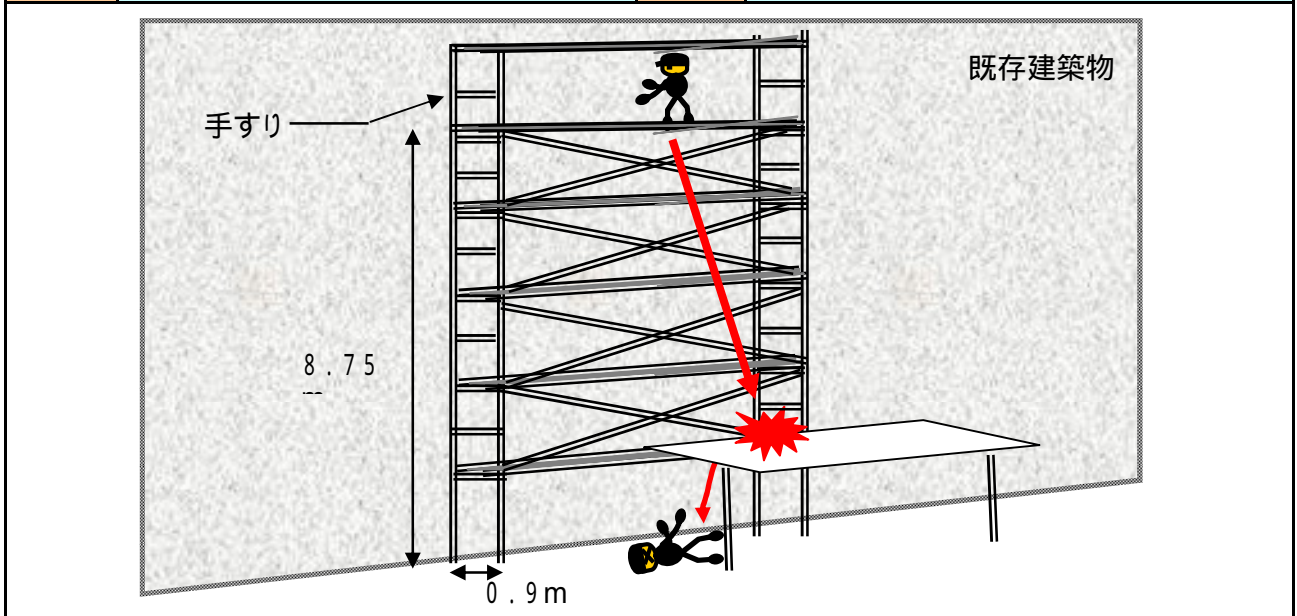


# 災害事例

宮崎労働基準監督署

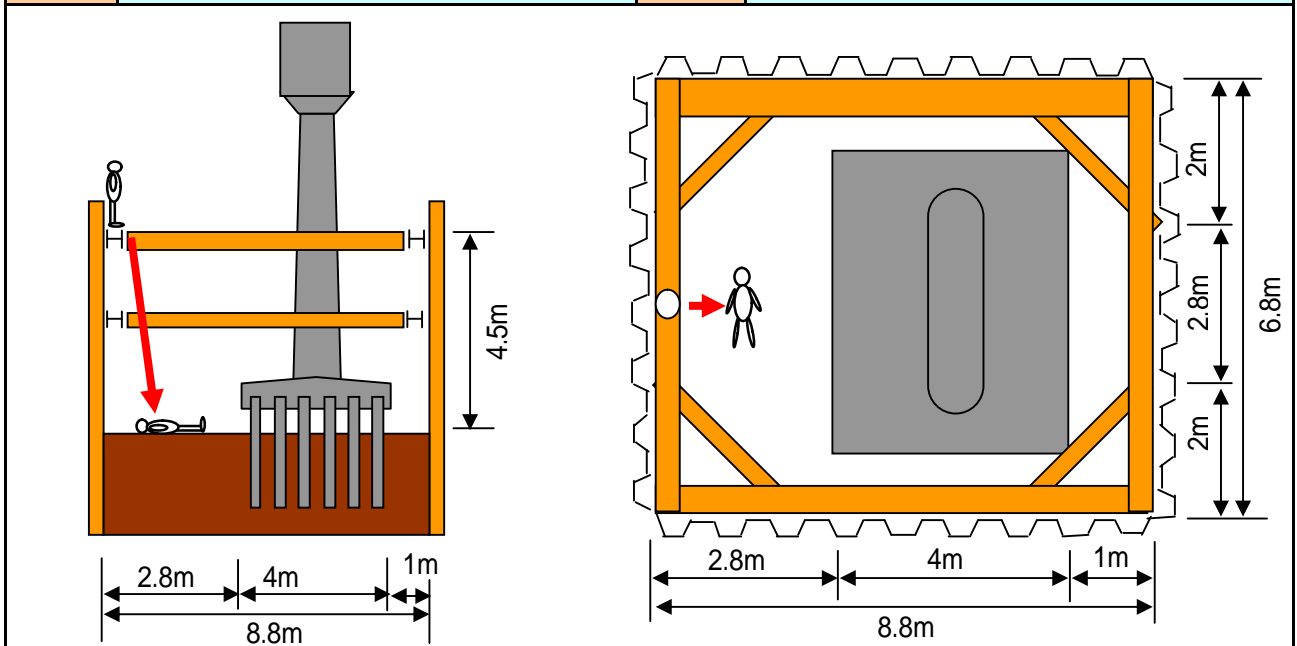
## 災害事例

事故の型	墜落、転落	起因物	足場
発生状況	4階バルコニー土間クラック補修用昇降足場解体中に、最上部の補助布板及び階段枠部分より門枠を解体するために移動中、足元がふらつき、バランスを崩し、墜落した。		
原因	安全帯は着用していたが、使用していなかった。 6層目で、足場を解体する際、プレスを外した状態で、作業を行っていた。	対策	足場解体作業において、事前に打合せを行い、安全帯を使用する等の墜落災害防止対策を徹底すること。



## 災害事例

事故の型	墜落、転落	起因物	支保工
発生状況	既設橋撤去工事にて、下部工(橋脚)撤去前、土止工の部材を清掃するために、排水ホースを使って水洗いをしていたところ、水とホースの重みで引きつけられ、墜落した。		
原因	墜落防止措置として、足場、手すり等の設置をしていなかったこと。 安全帯を使用して作業を行わなかったこと。	対策	墜落防止措置として、足場、手すり等を設置すること。 安全帯を使用し、また防網を張ってから作業を行うこと。





# 災害事例(災害別)①

宮崎労働基準監督署

## 屋根から墜落

屋根瓦塗装工事にて、屋根瓦上で滑り軒先から墜落。(高さ3m、安全带未着用)

屋根の土間板の釘をパールで引き抜いていたところ、バランスを崩し屋根から墜落。(高さ2m、安全带未着用)

住宅新築工事にて屋根の上で作業中、足を滑らせ墜落。(安全带未着用)

住宅塗装工事にて、屋根上を移動する際、バランスを崩し墜落。

車庫解体工事にて、屋根上で釘が抜いてあった屋根垂木に足をかけたところ、屋根垂木と共に墜落。(安全带未着用)

住宅塗装工事にて、屋根上の塗り終えた箇所に足を掛けたところ、足が滑り墜落。(高さ3m、安全带未着用)

## 足場から墜落

マンションの吹付け作業にて、作業者が布板を外し置いていたところ、別の作業者が置いていた布板に乗り、1段下へ墜落。

7階外部足場にて、7階床面へ移動する際、昇降設備を使用せずに、筋かいをつたって降りようとしたところ、足が滑り7階床面に墜落。(高さ1.8m)

浸水防止壁工事にて外部足場から杭の計測中、足を滑らせ墜落。(安全带未着用)

マンション改修工事にて外部足場を解体中、バランスを崩し墜落。(高さ約9m)

事務所新築工事にて、鉄骨梁下端とブレースに足をかけ作業を行っていたところ、足を滑らせ墜落。(高さ2.7m、安全带未着用)

## 脚立・梯子の災害

自社倉庫内で梯子を降りていたところ、梯子ごと左方向に倒れ墜落。

住宅解体工事にて梯子を降りていたところ、梯子を固定していなかったため倒れ墜落。

倉庫新築工事にて外壁板張り作業中、脚立から墜落。

自社作業場内にて、ウマ足場に角パイプ(100mm×100mm×2500mm)を乗せる際、手を滑らせ手がウマと角パイプに挟まれた。

造園工事にて植木剪定中、脚立(180cm)から墜落。

駐車場壁補修工事にて、壁ボードを撤去するため脚立にまたがり、電動ドライバーを壁に押し当てたところ、バランスを崩し脚立ごと倒れ墜落。

住宅防音工事にて脚立の天端で作業をしていたところ、バランスを崩し脚立ごと倒れ墜落。(高さ60cm)

建設現場にて、脚立足場から降りる時にバランスを崩し、近くの外部足場を掴んだところ、建わくと筋交いの間に手が挟まった状態で墜落。

改築工事にて、2つの脚立に道板を置きその上に乗ってパールで釘を抜いていたところ、反動で脚立が倒れ墜落。

## 感電災害

住宅工事にて、移動式クレーンのジブの先端が電線に接触し感電。

店舗新築工事にて床埋込配管内にケーブルを入線中、頭部に充電部(200V)が接触し感電。(ヘルメット未着用)

# 災害事例(災害別)②

宮崎労働基準監督署

## 車両系建設機械災害

トラックにコンバインローラー積み込み中、足場が崩れ、ローラーが滑り、危険を感じたため飛び降りたところ、腰を痛めた。

ブロックをドラグ・ショベルのバケットに入れていたところ、ブロックがドラグ・ショベルのアームに当たり、右足に直撃。

側溝敷設工事の床掘り作業中、作業員がドラグ・ショベルのキャタピラに足を挟まれた。

配水管布設替工事にて、ローラー転圧者の足が重機のキャタピラに接触。

治山工事にてドラグ・ショベルで巨石を吊り上げたところ、石がぶれて他の作業員の足を挟んだ。(用途外使用)

ドラグ・ショベルで碎石を取りに行った際、ドラグ・ショベルが傾き運転席から落ちそうになったためとっさに走行レバーに手がかかったところ、キャタピラで地面に着いた本人の足を轢いた。

## 石が落下し負傷

道路災害復旧工事にてブロック積の施工中、浮石の撤去をしていたところ、1.5m上の石が落下し足を直撃。

道路復旧工事にて法面清掃を行なうため、浮石や土砂等を除去(高さ16m)していたところ、岩石(幅2m、奥行き4m)が突然崩落し法面に叩きつけられ、上部から崩落してきた土砂や転石により被災した。(親綱、安全带着用)

災害復旧工事にて石積の巨石を据付作業中、床掘背面の浮石(直径20cm)が落下し足に直撃。

## 機械に巻き込まれ負傷

住宅新築工事にて電動ドリルで穴あけ作業中、電動ドリルの刃が板に食い込み、弾みでドリル本体が回転したため、握っていた手が巻き込まれた。

バインドローラーの整備中、回転テーブルを停止せずにローラーに近づいたため、手が巻き込まれた。

パイプマシーンでガス管ねじ切り作業中、回転しているパイプに軍手がひっかかり指を巻き込んだ。

## 機械を止めずに点検・整備して負傷

攪拌機のベルト点検中、エンジンを止めずに行ない、指がベルトに触れ切った。

バインドローラーの整備中、回転テーブルを停止せずにローラーに近づいたため、手が巻き込まれた。

## 交通事故

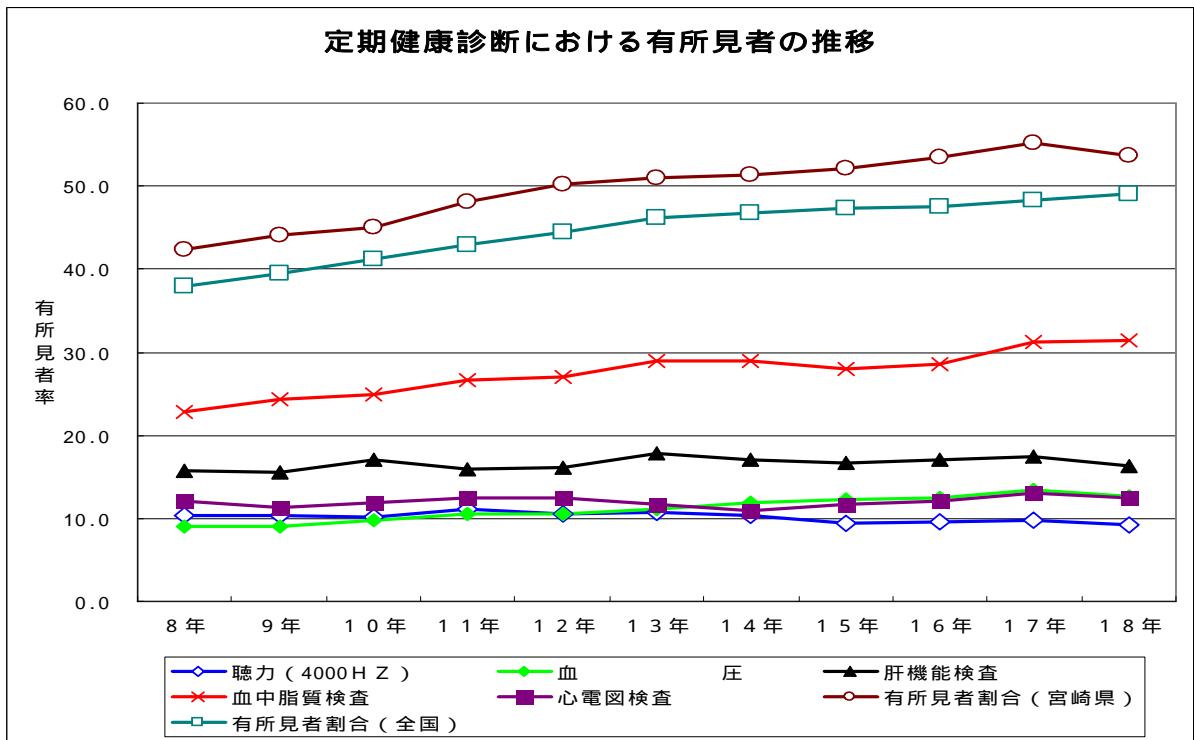
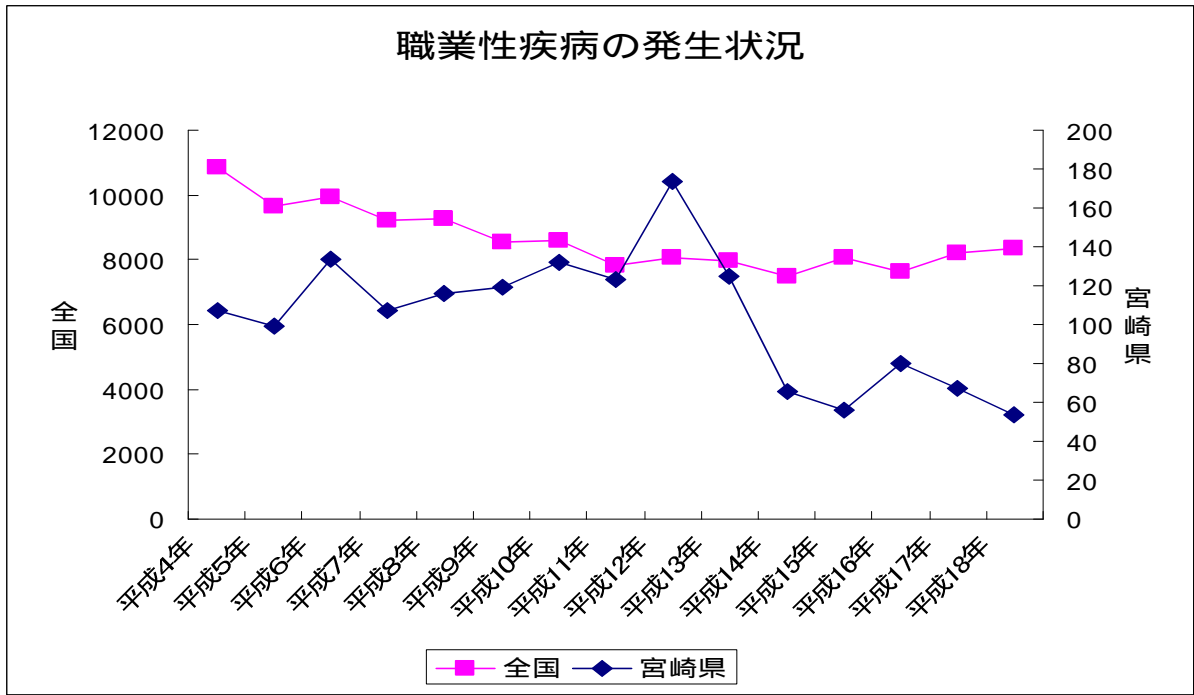
道路植栽維持管理工事にて、車線減少区間を設けた作業区間で中央分離帯の植栽剪定作業中、軽自動車作業区間に進入し作業員に激突。

工事現場に移動中、十字路の交差点で左方から車両が向かってきて衝突。

普通貨物自動車を運転中、前方不注意のため前の車両に追突。

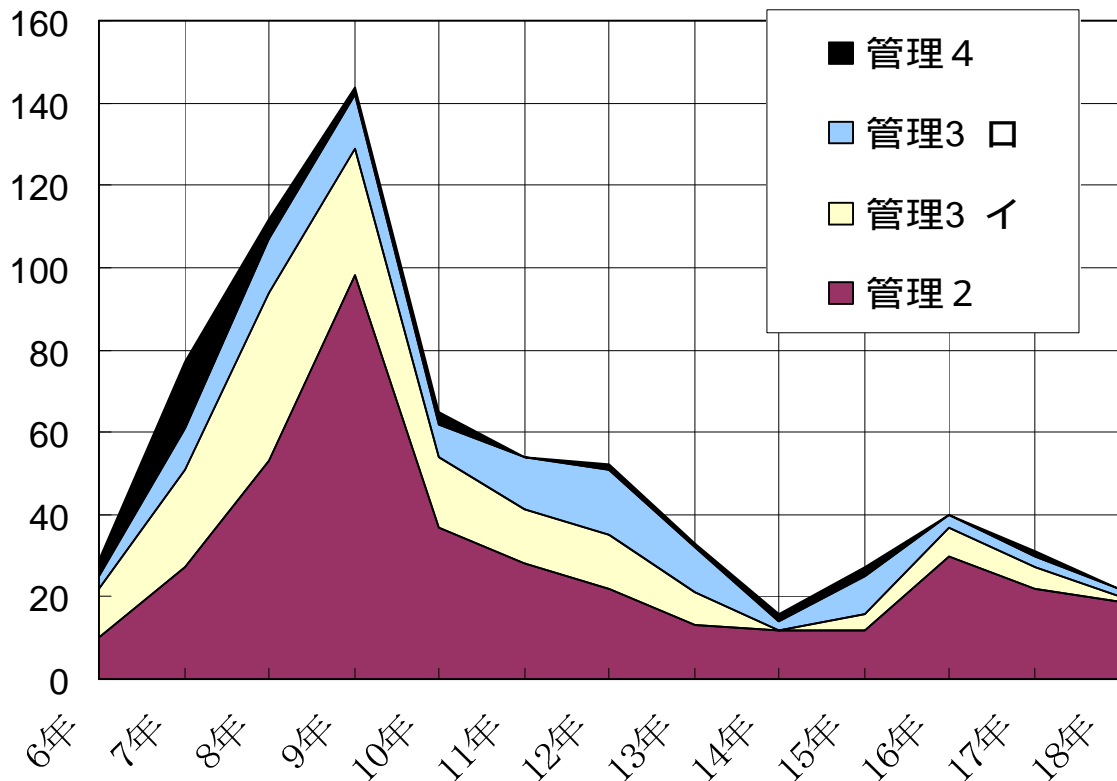
## 職業性疾病

ヒューム管設置工事にて、不要部をエンジンカッター等で切除していたところ、突発性難聴。(耳栓未使用)



項目	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
聴力 (4000Hz)	10.4	10.3	10.2	11.1	10.5	10.8	10.3	9.4	9.5	9.7	9.2
血圧	9.1	9.1	9.7	10.5	10.5	11.0	12.0	12.2	12.5	13.4	12.6
肝機能検査	15.7	15.6	17.1	15.8	16.1	17.8	17.1	16.8	17	17.5	16.2
血中脂質検査	22.8	24.3	24.9	26.7	27.1	29.0	29.0	28.0	28.6	31.2	31.5
心電図検査	12.1	11.3	11.9	12.4	12.5	11.7	11.0	11.6	12.1	13.0	12.5
有所見者割合 (宮崎県)	42.3	44.1	45.1	48.2	50.2	50.9	51.3	52.1	53.4	55.3	53.7
有所見者割合 (全国)	38.0	39.5	41.2	42.9	44.5	46.2	46.7	47.3	47.6	48.4	49.1

じん肺管理区分決定状況



振動障害認定者の推移

